

日本学校教育相談学会
各支部理事長 各位
会員 各位

平成29年10月

日本学校教育相談学会
会長 栗原 慎二
研修委員長 渡辺 正雄

日本学校教育相談学会第28回「中央研修会」開催のご案内

時下、会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、日本学校教育相談学会第28回「中央研修会」の研修内容が下記のように決まりましたので、お知らせいたします。今回の研修会では、プレ講座3講座、シンポジウム「『主体的・対話的で深い学び』の実現を考える～互惠的協同性による学校づくりのアプローチ」、学校教育相談活動に資する7つのコース別講座を企画しております。年始めではございますが、万障お繰り合わせのうえご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

- 1 主催 日本学校教育相談学会
主管 日本学校教育相談学会研修委員会
- 2 期日 平成30年1月6日(土)～7日(日)
- 3 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
- 4 募集定員 6日(土)「プレ講座」(3講座×各70～80名程度)先着順
「シンポジウム」240名程度
7日(日)「コース別講座」合計240名(7講座×各30～40名程度)
- 5 日程

<6日(土)>(会場:センター棟・懇親会のみ宿泊D棟レストラン「さくら」)

時刻	12:45	13:00	14:30	14:55	15:10	18:15	18:30	20:00
1月6日(土)	受付	プレ講座 ①②③		開会セレモニー	シンポジウム		教育相談カフェ (懇親会)	

★プレ講座 13:00～14:30 (受付は各研修室で12:45より行います)

- ①「学校で活かすパペットセラピー」401室
- ②「逆境に負けない力、心の回復力～レジリエンス～の育て方」403室
- ③「子どもたちのネットモラルをどう育てるか」405室

★開会セレモニー 14:55～15:10 セミナーホール 417室

★シンポジウム 15:10～18:15 セミナーホール 417室

★教育相談カフェ(懇親会) 18:30～20:00 (宿泊D棟レストラン「さくら」)

※書籍販売6日(土)～7日(日)413室 ※研修委員会本部 416室

<7日(日)>(会場:センター棟)

★受付 9:00～9:30 ★コース別講座(各研修室) 9:30～15:30

時刻	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
1月7日(日)	受付	コース別講座 途中休憩含	昼食 *昼食時刻はコースによって異なります。	コース別講座 途中休憩含	コース毎に解散

6 研修内容

【プレ講座と担当講師からのメッセージ】

① 「学校で活かすパペットセラピー」

江川 久美子 先生（足利短期大学）

パペットセラピーとは、日本パペットセラピー学会では、発話機能を持つパペットを介在させて、対象者と言語、非言語のコミュニケーションをとることにより、相手の心身への好ましい効果をもたらす活動と定義しています。私は、腹話術とセラピーの融合と捉え、仕事や生活に活かしています。本手法は、生活のあらゆる場面で、年齢を問わず、個人に対しても集団に対しても適用可能です。具体的には、心理療法や心理ケア、教育、医療や療育の領域においても活用されています。

講座では、学校で活かすパペットセラピーについて、知的能力障害の息子の子育てや、学校での活用など、自身の経験を通して理論をご紹介します。さらに、児童や生徒に人気のある、先生方に評判の良い、パペットを使った「ストレスマネジメント」の授業を一部実演します。さらに、皆様に講師自作のパペットを装着していただき、教育相談活動に活かしてもらえよう、本手法をご教授致します。

（持ち物）色鉛筆のご持参をお願い致します。

② 「逆境に負けない力、心の回復力～レジリエンス～の育て方」

鈴木 水季 先生（郁文館夢学園スクールカウンセラー）

レジリエンスとは「逆境や困難からの心の回復過程や、その能力」のことであり、近年、レジリエンスをどのように養うかということは、教育において重要なテーマとなっている。英米では発達早期にレジリエンスを身につける必要性が提唱され、学校におけるレジリエンス教育が効果をあげているが、日本においても子ども達のレジリエンスを育てる教育実践が始まっている。

講師は、英国で開発された「SPARKレジリエンスプログラム」というポジティブ心理学、レジリエンス研究、PTG（心的外傷後成長）、認知行動療法の四つの実証研究に基づいたカリキュラムを、日本の生徒むけにローカライズして、多くの中高生にむけてレジリエンス教育の授業実践を行っている。

本講座では、レジリエンス教育について知って子どもたちへの教育実践に活かして頂くことと、ワークなどを通じて受講される方自身の人生にもレジリエンス概念を活かして頂くことをねらいとしたい。

③ 「子どもたちのネットモラルをどう育てるか」

伊藤 あかり 先生 後藤 美郷 先生

山本 雅子 先生 福地 友理奈 先生（学生団体UniX）

学生団体UniXでは普段小学校から大学まで幅広い年代の学生を対象とした講座を行っています。学生が年齢の近い学生に教えることの強みとしては、同じデジタルネイティブ世代であり、同じ学生として大人よりも近い感覚・立場でスマホを利用していることがあります。講座を通じて、現状で問題になっているネット依存・友人間でのトラブル・ネット上のみでの知り合いとのトラブルなど、身近な事例をもとに普段の使い方を見直すきっかけをつくれる構成にしています。

子どもたちが普段スマホやSNSを使う領域が増えており、個人を特定できるような情報を発信するハードルが下がりつつもその分、危険も増加しています。そんな状況下で情報の取捨選択能力、個人情報危機管理能力が不十分な学生も多くいます。しかし、危険性だけでなく楽しく使うことも取り上げ、様々な可能性を広げることに繋がることを考えて講座を行っています。

【シンポジウム】

「『主体的・対話的で深い学び』の実現を考える～互惠的協同性による学校作りのアプローチ」

〔企画趣旨〕シンポジウムは、次期学習指導要領のキーワードである『主体的・対話的で深い学び』をどのように実現するかという企画です。教室での主体的な学びには、学び合う子どもたちの協同性の質を高めることが大切です。子どもたちの協同性の質を高めるには、互いの対話的学びが必要条件になります。子どもたちの対話的能力の育成は、学校教育相談が重視してきた、ガイダンス活動の一つです。今回の新学習指導要領には、教育相談が関わる余地が大いにあります。基調講演の後、3名のシンポジストから各テーマで話題提供をしていただきます。指定討論は、本学会会長が行います。フロアからの質疑の後、参加者が互いの意見を交換し合いながら議論を深める予定です。

〔基調講演〕「『主体的・対話的で深い学び』と協同教育」 関田 一彦 先生（創価大学）

〔シンポジウムの視点と話題提供者〕

「授業づくりと生徒指導の一体化を目指して」

大井 隆 先生（新潟市教育委員会）

「主体的・対話的で深い学びに迫る総社型マルチレベルアプローチ」

下山 郁子 先生（総社市教育委員会）

「アクティブラーニングを活かしたキャリア教育」

鈴木 建生 先生（ユマニテク短期大学）

〔指定討論〕栗原 慎二 先生（広島大学）

【コース別講座と担当講師からのメッセージ】

Aコース：「学級経営力を高めるハプンスタンス・トレーニング」 高橋 知己 先生（上越教育大学）

学級経営に悩む教師は多い。自らの想定目標や計画通りに学級の子どもたちが動いてくれないことで不安を感じ自信を失っていく。しかし、教育実践の場において予定調和的なことの方が少なく、イレギュラーな出来事に教師は振り回されることが常である。

むしろそうしたハプンスタンス（予期せぬできごと）を積極的に意味づけし、固定的な関係性を揺り動かすことで、学級経営を再構築する契機とする視点が必要ではないだろうか。

固定的で閉塞的な学級集団にゆらぎを与え、そこから生まれてくるエネルギーで生徒が自律的に集団づくりに参画できるような学級経営を考えていきたい。

Bコース：「ロールプレイングを活かした学校教育相談

—個別支援と集団適応支援へのアプローチとして—」 八島 禎宏 先生（作新学院小学部）

ロールプレイングは、「現実に近い状況を設定し、参加者に特定の役割を演じさせることによって物事への視点の客観性を高め、自分では気づかなかった日常生活での課題や問題の解決、あるいは自己を再発見」することを目的としています。役割や立場を理解し現実に立ち向かう主体性や創造性を高めるために行われるドラマ的な手法を使ったセラピーともいえます(八島,2006)。本講座では、実践編として要配慮児童生徒とその周囲の学級集団の双方を対象とし“理解”をテーマとしたロールプレイングの模擬演習を計画しています。

さらに、理論編としてサポートレベルやアセスメントなどを分かりやすく示した「ロールプレイングマネージメント」も学びます。総括編では、学校カウンセラーとして実際のカウンセリングを想定した模擬カウンセリングを行います。この実践演習は、学校カウンセラーとしての技量・資質・態度を伸ばしていくための貴重な体験となるはずです。

【参考図書】『通常学級で取り組む！「周りにいる子」をまきこんだ「気になる子」へのアプローチ』

（八島禎宏）明治図書 2014

Cコース：「虐待と愛着障害の理解と対応」玉井 邦夫 先生（大正大学）

子ども虐待の問題は、すでに学校現場においても避けて通ることのできない課題になっている。しかしながら、多くの教員にとって、虐待という親子関係はやはり理解困難なところが多いようである。虐待の臨床は、懲罰の視点からは成功しない。この講義では、まず虐待という親子関係がどのような家族システムの不全から生じてくるのかを理解する。その上で、子どもの発達においてどのような影響が生じるのかを踏まえた対応のあり方について検討することになる。虐待臨床は、どこかの機関ないし職種の単独での対応は不可能である。講義では、それが不可能である意味も含め解説し、あるべき機関間連携のあり方についても検討する。

Dコース：「セカンドステップの実際に学ぶ～幼児から大人まで社会で役立つスキルとは何か」

三好 布生加 先生（日本こどものための委員会）

学校では、暴力の問題やいじめの対応において、情動のコントロールを育む必要性が指摘されています。暴力をふるったり、イライラした気持ちを他の人に向けたり、あるいはガマンしたりする子どもたちに対して、私たちはどのような関わりができるのでしょうか。

今回紹介する『セカンドステップ』は、社会性や情動を学び、人間関係を高める SEL (social emotional learning) の代表的なプログラムです。すべての子どもの社会性を育むこと、学業を成就させること、そして問題行動を減らすことを目標としています。効果が検証されており、東京都品川区の全小学校に導入されています。

問題が起きた後、「怒っちゃだめ」「我慢しなくちゃいけない、約束だよ」「次はちゃんと考えよう」というような常識的な声かけを一步超えて、社会で必要なスキルを伝えていきませんか？ 講座では、3歳～16歳向け教材を使って学びます。困っている子どもにとって、そして自分自身にも役に立つ社会スキルを是非体験してください。

Eコース：「感覚統合の考え方を学校教育に活かすために」

松本 政悦 先生（よこはま港南地域療育センター）

発達障害がある子どもたちは、姿勢を保つことや、なめらかに体を動かすこと、必要な情報を選択して取り込むことなどが苦手です。本来であればこれらは脳が意識下で自動的に行っている働きです。この「下支え」があるからこそ私たちは読み書きや体操などをスムーズに実行できるのです。感覚統合の考え方によれば、発達障害のある子どもの多くが、この意識下の機能に未熟さがあるため「なぜだかわからないがうまくできない」状態になっていると捉えます。

彼らの問題点は、苦手なことそれ自体であるというよりむしろ、苦手なことを補う方法がわからず、自分の得意な機能を活かしきれないことだともいえます。この講座では、子どもたちの脳機能の問題についてわかりやすく解説します。そして「体験プログラム」を通して子どもたちを共感的に理解することを目的にします。また現場で有効と考えられる支援のアイデアもいくつか紹介します。

Fコース：「これからの道徳科授業の進め方～深く考え、議論するため課題探求型道徳科授業のすすめ」

田沼 茂紀 先生（國學院大學）

本講座は、新年度より順次実施される道徳科の新時代を迎え、一教師として、一学級担任として子供たちにどのような目的と指導観をもって指導し、どのように道徳的な生きて働く力＝道徳力を育ていけばよいのかという点に言及して展開します。また本講座では道徳科の新たな指導法、教材分析、学習評価法等に不安を抱えている教師に寄り添う形で少しでも福音となるような実践ガイドの役割が果たせたらと考えています。講座は2部構成にします。第1部は担当者による道徳指導理論の考え方である「課題探求型道徳科授業」と「パッケージ型ユニット」の基本的な考え方について、第2部は受講者と共に実践的な立場から授業実践構想案を作成してみたいと思います。本講座のポイントは、早速明日の道徳科授業から実践してみたいような入門講座として構成していることです。

Gコース：「論文の書き方講座－学校現場のための実践論文作成のコツ－」

渡辺 進 先生（学会誌作成委員会・新潟県立堀之内高校）

本講座は、幼・小・中・高・特支等の学校現場教師を主な対象として設定しています。学校現場で教育活動を熱心に行うためにはかなりの労力が求められます。さらにその実践を文字にして投稿・発表することは、強い意志と時間の工夫等が必要となります。そのような日々実践をされている方がパツパツッと要領よく書けるように、「実践論文作成のコツ」を一緒に学んでもらうことを目的とします。

前半は、実践論文を書く際の「執筆の構え」「手順」「論旨の組立」「表記方法」「研究テーマの選び方」「抄録の書き方」「先行研究の検討」「目的・仮説の書き方」「事例経過のまとめ方」「結果の提示及び考察の書き方」「参考引用の示し方」等について具体的な説明を行います。後半は、受講者の方に実際の実践事例をA4用紙2枚くらいにまとめる作業を体験していただきます。その際に、各自の実践事例に係る資料をご持参していただいても良いですし、特にない場合は当方で用意したものを使って行います。気軽に、楽しく、実りのある集いにしたいと考えています。

7 参加費〔両日の参加費です〕

【1月6日（土）プレ講座・シンポジウム、7日（日）コース別講座】

ア 会員 10,500円 イ 学校カウンセラー 7,500円（※必ず認定証を持参のこと）

ウ ガイダンスカウンセラー関係学会会員 10,500円 エ 非会員 11,500円

オ 学生・院生 6,500円（※原則として社会人は学生扱い致しません）

カ 教育相談カフェ（1/6の懇親会）4,500円（学生・院生は3,500円）

※申し込み締め切り（12月16日必着）後、定員に空きがある場合は、学会ホームページでお知らせし、追加申し込みを受けます。申し込み締め切り（12月16日必着）以降の申し込み及び参加費振り込みの場合は、すべて1,000円増となりますのでご了承下さい。

※コース別講座は学校心理士の更新申請ポイントBとなります。

※参加者全員にプレ講座・シンポジウム、各コース別講座で使用される資料を集めた中央研修会『資料集』を配布します。

※昼食は各自でご用意下さい。センター内の各レストランもご利用いただけます。

※研修証明書は、プレ講座・シンポジウム終了後とコース別講座終了後にお渡しします。

※参加費振り込み後の参加取り消しは、返金致しません。但し、代理の出席は認めます。

※両日参加が原則です。個人都合等による1日参加の場合も両日分の参加費をいただきます。

8 申し込み方法および申し込み期間

（1）申し込み方法

別紙の参加申込書に記入し、必ず研修費用を振り込みの上、郵送またはFAXで申し込んで下さい。旅券やホテルの申し込みもできます。

（2）申し込み締め切り 平成29年12月16日（土）（必着）

※プレ講座（70～80名程度）と各コース別講座（各30～40名程度）は先着順の申し込みとなります。第1希望の申し込みが定員を超えた場合は、第2希望となります。尚、講師の急病や緊急事態等による講座の取りやめの場合は、第2希望等に移っていただく場合もございます。

※全体の申し込み総数が240名を超えたところで、参加申し込みを終了します。

※締め切り日を過ぎても定員に満たない場合には、学会ホームページでお知らせします。

※締め切り日に申し込み者が10名未満の講座は、開講しないこともあります。その場合には、「受講料の全額返金」か「他のコースへの変更」を選択していただきます。あらかじめご了承下さい。

<申し込み先>

〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 目白坂STビル7階
近畿日本ツーリスト株式会社 東京第3教育旅行支店

日本学校教育相談学会「中央研修会」係 宛

FAX 03-6892-7328 TEL 03-6892-2711

担当 原田 拓・佐々木 充

※日本学校教育相談学会「中央研修会」係のサポートスタッフが対応します。

※営業時間 平日9:00~17:40 土曜日9:00~13:00

※近畿日本ツーリストの受付業務は平成29年12月16日(土)までです。

※12月16日(土)以降の研修会に関するお問い合わせは、研修委員会へ
電話でお願いします。

○研修委員会 電話090-2541-8338 (渡辺正雄)

交通案内



- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
〔代々木公園方面出口〕
- 京王バス
新宿駅西口(16番)より
渋谷駅西口(14番)より 〈代々木5丁目下車〉

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
(申込受付専用)
電話:(03)3469-2525
FAX:(03)3469-2277
ホームページ <http://nyc.niye.go.jp/>



シンボルマークについて

若人の情熱的な躍動するダイナミックな力と、Youth(若者)のYを重ね合わせたイメージによるデザイン。